



令和5年2月14日

各位

会社名 株式会社アプリックス  
代表者名 代表取締役社長 倉林 聡子  
(コード：3727、東証グロース)  
問合せ先 経営管理部 担当部長 岩井 俊輔  
(TEL. 050-3786-1715)

## 連結業績及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

令和4年12月期（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の連結業績及び個別業績につきまして、前期（令和3年1月1日～令和3年12月31日）の実績と比較して差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績の前期実績との差異

##### (1) 令和4年12月期連結業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	一株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (令和3年12月期)	百万円 3,504	百万円 △102	百万円 △104	百万円 △106	円 銭 △4.83
当期実績 (B) (令和4年12月期)	3,501	49	51	138	6.28
増減額 (B-A)	△3	151	156	245	—
増減率 (%)	△0.1	—	—	—	—

##### (2) 差異の理由（連結業績）

売上高につきましては、新収益認識基準の適用による影響のほか、世界的な半導体・部品不足等の影響による製品売上の鈍化、また一部顧客のプロジェクト規模大幅縮小等の影響があったものの、MVNO事業における携帯電話端末や音声・データ通信サービス、またモバイルWiFiルーターの月額利用料金がストック収益として順調に積み上がったこと等を主な要因として、前期実績とほぼ横ばいという結果になりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については、上記のとおりMVNO事業におけるストック収益が順調に積み上がったことや、エンジニア稼働率の向上等の開発コストの適正化等に取り組んだ結果、前期実績との比較においていずれの損益についても増加しました。

#### 2. 個別業績の前期実績との差異

##### (1) 令和4年12月期個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (令和3年12月期)	百万円 612	百万円 △103	百万円 △100	百万円 △70	円 銭 △3.20
当期実績 (B) (令和4年12月期)	600	△62	△56	△12	△0.56
増減額 (B-A)	△11	41	44	58	—
増減率 (%)	△1.9	—	—	—	—

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。  
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。  
よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

(2) 差異の理由 (個別業績)

売上高につきましては、受託開発案件における主要顧客の予算削減による開発案件の規模縮小等を主な理由として前期実績より 1.9%の減少となりました。

営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、上記のとおり主要顧客の予算削減による開発案件の規模縮小等を要因としていずれも赤字となりましたが、エンジニア稼働率の向上等の開発コストの適正化に取り組んだ結果、いずれの損益も前期比で改善いたしました。

以上